



クルーズ・オブ・ザ・イヤー2023

年間で最もオリジナリティがあり、クルーズマーケットの拡大に寄与したクルーズ商品に贈られる「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」。その授賞式が昨年12月22日(金)、海運ビル(東京都千代田区)で行われた。日本外航客船協会が主催し、国土交通省、観光庁、日本旅行業協会が後援するもので今回が13回目。2022年12月から国際クルーズの運航が再開され、現在では本格回復していることから4年ぶりの開催となり、グランプリ(国土交通大臣賞)1点、優秀賞2点、特別賞4点が選ばれた。

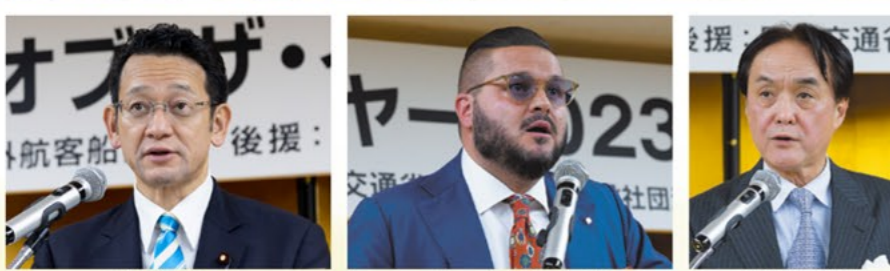
MSCベリッシマ 日本周遊クルーズ

株式会社MSCクルーズジャパン 株式会社ジャパネットサービスインベーション 株式会社クルーズプラネット(3社合同受賞)



グランプリは3社合同受賞となった。MSCクルーズは最新鋭のメガシップ「MSCベリッシマ」を約8カ月間にわたり日本に配船。日本周遊クルーズの乗客数はチャータークルーズと合わせ10万人を超えた。新しい販売チャンネルの構築や、Netflix映画「クレイジークルーズ」の制作への特別協力による若年層への取り組みなど、新しいマーケットを切り開いた。

ジャパネットサービスインベーションは同船を13航海にわたり全船チャーターし、4万人以上を集客。テレビショッピングという新しい販売チャンネルを、2018年の優秀賞受賞以来継続的に進化させ、潜在需要の掘り起こしに寄与した。また、同グループ会社のBS放送局で、多くの著名人が乗船する様子や初心者向け乗船ガイドをテレビ放映することにより、クルーズ未経験の層に大きなインパクトを与えた。クルーズプラネットは音楽グループ



国土交通副大臣 國場幸之助氏 (来賓挨拶) | MSCクルーズジャパン社長 モレリ オリビエロ氏 (3社合同受賞代表挨拶) | 日本外航客船協会 会長 遠藤弘之氏

特別賞

クルーズライター 上田 寿美子 殿

クルーズ乗船歴50年、クルーズライターのパイオニアとして長年にわたりさまざまなメディアや講演会を通じて、クルーズ旅行の楽しさを発信。今年1月にはテレビ番組「マッコの知らない世界」に2週連続で出演。大きな反響を受け、クルーズ各社の売上増にもつながった。外国籍クルーズ船の受入再開直前のタイミングに業界全体を気づけた功績も評価された。

※上田氏は本件選考委員のため、特別賞の選考時には離席。

日本国際クルーズ協議会
《国際クルーズの再開を目指して》

同協議会は外国船社の日本支社・日本法人や、販売旅行会社、船舶代理店、ランドオペレーターなどにより、コロナ禍の中の2021年4月に設立。22年11月に外国籍船の感染予防ガイドラインを策定、関係各所との調整・交渉を行うなど尽力し、23年3月からの外国籍船の日本寄港再開に貢献。今後も外国籍クルーズ船に関わる業界団体としての活躍が期待されている。



総トン数 171,598t
就航年 2019年3月
乗客定員 5,686名
客室 2,217室

優秀賞

憧れの豪華客船 飛鳥IIに2泊する 船旅と名湯と美食旅 株式会社阪急交通社

飛鳥IIのクルーズ2泊と寄港先の宿泊・観光をセットにし、添乗員同行としたパック旅行商品を企画。東京を中心に約2,000人が参加した。クルーズが初めての方でも安心して参加できるようにハードとらえた。

にっぽん丸 大洗発チャータークルーズ 日立ポートサービス(日立埠頭株式会社)

地元・大洗港区発着のクルーズを多数、企画実施。茨城県はもとより、東日本地域のクルーズ需要の拡大・掘り起こしに貢献したことが評価された。車社会という地域特性を考慮した無料駐車場の設置や、北関東・南東北各地からの往復送迎バスの運行などで、参加へのハードルを下げた。船内では地元・大洗町の特産品を提供するなど地元活性化にも貢献、一度参加した乗客が友人を連れてリピートするなど、地元マーケット拡大に好循環が生まれている。

静岡県 交通基盤部港湾局《清水港》

中断していた外国籍クルーズ船による日本寄港再開第一弾として、昨年3月1日に「アマデア」(フェニックス・ライゼン)を受け入れた。安全・安心を最優先に日本船の受入実績を重ね、外国船社との継続的な関係の維持に努めたことが成功につながった。富士山を背景に入港する「アマデア」の姿は多くのメディアで報じられ、クルーズ再開の認知度向上に貢献した。

金沢港クルーズターミナル

金沢港開港50周年を機に建設された2020年6月に開館。クルーズターミナルの建設が課題となるなか、公共的で汎用的な多目的ホールとしたことが評価された。金沢港の歴史や港の仕事を学べる施設などを設置。貸館として、展示会、ヨガ教室、結婚式、保育園の運動会などにも開放し港のにぎわいの拠点となった。昨年は日本海側トップクラスの寄港数(47回)も達成した。

「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」とは クルーズ業界の市場を広げる表彰制度

「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」は、旅行業界の健全な発展に寄与したクルーズ旅行商品等を対象とした表彰制度。応募された中から、特にオリジナリティに溢れ、日本のクルーズマーケット拡大に貢献した商品等を選出。企画・実施した旅行会社・船会社等を顕彰する。

- 各賞の選考基準**
- 【グランプリ(国土交通大臣賞)】**
一般消費者に対し、良質なクルーズ商品、サービスの提供をしたと認められるクルーズ、クルーズ・パッケージ商品、チャータークルーズ商品等を表彰する(国土交通大臣賞については、当該案件が国土交通行政施策の推進、普及又は啓発に寄与する場合に限り交付)。
- 【優秀賞】**
極めて高い集客実績を上げたクルーズ商品、話題性が極めて高いユニークなクルーズ商品、新たな市場開拓へチャレンジし、社会的にも大きな話題を提供したクルーズ商品等を表彰する。
- 【特別賞】**
クルーズ旅行商品以外で、その年に特にクルーズ振興や客船誘致活動に顕著に寄与したと認められる、企業、自治体、団体、クルーズ振興に貢献した人物等を表彰する。
- 「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2023」選考委員会**
- 【委員長】 池田 良穂 大阪府立大学名誉教授、大阪公立大学客員教授
【委員】 池畑 孝治(一般社団法人日本旅行業協会 理事・事務局長)
上田 寿美子(クルーズライター)
指田 徹(国土交通省 海事局外航課長)
中村 辰美(イラストレーター PUNIP cruises 代表)
政次(「クルーズトラベラー」編集長)
吉田 絵里(「クルーズ」編集長)

一般社団法人 日本外航客船協会
www.jopa.or.jp
外航客船および外航定期旅客船を運航する会社・旅行会社・港湾管理者・造船会社等で構成された一般社団法人。より安全で快適な船旅の実現と客船事業の振興をめざし活動を続けている。「クルーズ・オブ・ザ・イヤー」主催。